

裸

ん

坊

水 島 さ ゆ り

雷を眞似て腹掛やつとさせ

「坊や腹掛をなさい。」

「さ、いゝ子だね、腹掛しませうね。」

「ぼんぼんが痛くなりますよ。」

「ワンワンが嘗めに來ますよ、さ、いらっしゃい。」

「ニヤアニヤがひつかきますよ。」

「そら、ゴロゴロ様ですよ坊や、さあ大變、ゴロ／＼ツ、ガラ／＼ツ。そしたら大變、お臍、お臍、早くお臍を隠さなくちやあ。」

すつてんてんの自由の天地を面白がつて、何と言つても腹掛をさせなかつた坊やも、ゴロゴロ様と聞いて、忽ちひそまつて言ふ通りになる。

川柳はうまい所を擱んでゐる。

裸の子おもしろがつて逃げるなり。

著飾つて乳母は裸を追ひ廻し

何れも子供の裸が躍如としてゐる。

裸は自然である。エデンの國では、アダムもイブも裸であつた。禁斷の木の實を食べてから、裸を恥ぢるやうになつた。子供は清淨無垢である。禁斷の木の實を食べない神の子である。裸を喜ぶのは當然である。

だがエデンの園ならぬ此の世では、木の實を食べた罪びと達が、着せようとして裸を追ひ廻す。着るまいとして裸は逃げる。逃げても逃げおほせず、罪無くして罪の子の布を纏ふことを餘儀なくさせられる。

此處に一人の例外がある。ベルギーのブラッセル市廳に近い四つ辻に立つ、所謂小便小僧のマニケン君である。マニケン君は奇抜な噴水として廣く知られてゐる裸ん坊の銅像で、もう三百年もの永い歳月を、晝夜の別なく、都大路に噴水のオシツコを垂れてゐる愛嬌者である。

傳へる所に據ると、さる王様の愛兒が、或時するりと王宮を抜け出して、行衛不明となつた。宮庭では上を下への大騒ぎとなり、大勢が血眼になつて捜し廻つた所、此の四つ辻で、騒ぎをよそにのうのう

と立ち小便をしていらせられた。王様は喜びの餘り、之を記念にして、王子の愛すべき姿を永久に留められたと言ふことである。

逃げ出した裸が、足を留めて小便をしてゐた。何と面白いではないか。小便小僧マニケン君が、自國の人々から愛せられるばかりでなく、今では世界中の人々から愛せられるのは偶然ではない。

我が日本からも先年挑太郎さんの陣羽織などを贈つて、大いにマニケン君の健在を祝したのであつたマニケン君はルイ十五世から何とかいふ勳章を頂いたこともあるし、或革命の起つた際には革命黨員の用ゐた服を着たこともあるそうである併し眞裸が本領であるマニケン君は、どれもすぐに脱ぎ捨てたことであらう。

何と可愛い裸ではないか

似寄つた話は何處にもあるものと見えて、私の弟にも裸の思ひ出話がある。尾張津島の天王祭と言へば、相當に名高いもので、當日は遠方の國々からも夥しい人出がする。

其の祭觀に町へ連れて行かうと、風呂から出した弟が、着物を着せようとすると姿が見えない。まだ履物の穿けない兒が、裸の跣で何處へ行つたとも知れない。兩親を始め、所處の人々まで騒ぎ出して、隈なく捜して見たが見附からない。父も母も青くなつた。

すると思ひがけない方面で、出入の男の一人がつかまへて來た。

私の村の前の街道は、十数町を隔てた津島町への通路であつて、其の日町へ町へと押寄せる群衆が、道も狭しと流れ行く。此の流れに逆つて、反対の方向に歩かうとしても、それは到底不可能である。其の街道まで家から數町あるが、その數町はいゝとして、例の街道を、しかも激流のやうな人の波に逆つて、三四町といふものを、どうまあ泳いで行つたものか、裸ん坊は隣村に入る技道の別れ目で足を留めて、プラツセル市のマニケン君そつくりの姿で、立ち小便をしてゐた所を、つかまへて連れもどされたのであつた。

會 告

本會機關雑誌『幼兒教育』は編輯の都合により八月號と九月號とを合し倍大八九月號として九月十五日に發行いたします。従つて八九月號は定價七拾錢となりますし會員の方は二ヶ月分會費を御支拂になることになります。豫め御承認を願ひます。

昭和三年七月一日

日本幼稚園協會